

令和8年 第1回芦屋町議会定例会 一般質問通告書

氏名	件名	要旨	備考
松岡 泉 [一問一答方式]	1. 町の「DX推進計画」の推進について	<p>国は「自治体デジタル・トランスフォーメーション（DX）推進計画」を策定し、地方自治体が重点的に取り組むべき事項・内容を具体化するとともに、人的支援や財政支援などを行っている。</p> <p>町は令和7年3月に「芦屋町DX推進計画」を策定し、町の抱える課題解決にデジタル技術を有効に活用しようとしている。しかし、計画策定から1年が経過するが、その進捗の動きが感じられない。</p> <p>(1) 町のDX推進計画について</p> <p>(2) 施策の進捗と課題について</p> <p>(3) 住民目線でデジタル弱者への配慮について</p> <p>(4) 今後、重視する分野と体制構築のロードマップについて</p>	
	2. 「障害者等日常生活用具」の新規導入について	<p>障害者等生活用具は、障害者等が地域で安心して日常生活を継続するために欠かすことができないものである。そのため、その用具の更新は障害者等の状態や生活環境の変化、用具の安全性、技術進歩を踏まえ、適切に給付されることが重要である。</p> <p>(1) 障害者等日常生活用具給付事業について</p> <p>(2) その事業の実施状況と課題について</p> <p>(3) 障害者向けの排泄予測支援機器「DFree」について</p>	
本田 浩 [一問一答方式]	1. 自治区加入率の低下と地域コミュニティについて	<p>昨今の芦屋町自治区の加入率は低下しており、地域コミュニティの今後が危惧される状況となってきている。将来に向かって芦屋町に住んでよかった町づくりの基本となる自治区の現状・今後についてお尋ねする。</p> <p>(1) 現状認識と危機感の共有について</p> <p>(2) 加入率低下がもたらす行政リスクについて</p> <p>(3) 原因の把握について</p> <p>(4) 自治区運営モデルそのものの課題について</p> <p>(5) 全国事例との比較について</p> <p>(6) 改善策（メリット・負担軽減）について</p> <p>(7) 将来像について</p>	

令和8年 第1回芦屋町議会定例会 一般質問通告書

氏名	件名	要旨	備考
川上 誠一 [一問一答方式]	1. 暫定税率の撤廃による農漁業の影響について	<p>令和8年4月1日より、軽油引取税の暫定税率が撤廃され、現在、漁業用船舶などには軽油1リットル当たり32.1円の免税措置が適用されているが、このうち17.1円の暫定税率分が廃止され、免税額は15円に減少する。</p> <p>また、暫定税率の17.1円が廃止されることで、燃料コストの削減が期待されていたが、これとは別に、農漁業者には、軽油本体に1リットル当たり17.1円支給されている補助金も廃止される予定となっている。そこで伺う。</p> <p>(1) 令和8年2月1日時点の税込実売価格91.3円の軽油が、令和8年4月1日には110円となり、農漁業者の生業に大きな影響となるが、町はどう考えるのか。</p> <p>(2) 燃油高騰引下げのため、農漁業者へ独自の財政補填を行っている自治体もあるが、芦屋町で燃油価格引下げの支援を行うことはできないのか。</p>	
	2. こどもからお年寄りまでが利用できる入浴施設の建設について	<p>貝掛町長は、昨年12月議会で、町長として初めての所信表明を述べられた。所信表明では、3つの柱とそれを実現するための4つの具体的な施策が示された。</p> <p>その中で、「芦屋町を一步前に」、「こどもから大人まで安心して集える居場所づくり」として、「小さなお子様からお年寄りまで町民全ての方が利用できる入浴施設の建設を目指す」とある。そこで伺う。</p> <p>(1) この事業の進捗状況は、どうなっているのか。</p> <p>(2) 町長としての具体的な構想は、どのように考えているのか。</p>	

令和8年 第1回芦屋町議会定例会 一般質問通告書

氏名	件名	要旨	備考
妹川 征男 [一問一答方式]	1. 二十歳のつどいの在り方について	<p>二十歳のつどいは、新成人が社会の一員としての自覚を深める人生の節目を祝う重要な式典である。 本年は例年行われている町民会館ではなく、総合体育館サブアリーナにおいて実施された。については、当該式典の意義及び今後の在り方について、次の事項を伺う。</p> <p>(1) 二十歳のつどいの目的及び位置づけについて</p> <p>(2) 他自治体における実行委員会方式の導入状況について</p> <p>① 新成人主体の式典実行委員会方式を採用している自治体の事例について</p> <p>② 同方式の特徴及び意義について</p> <p>(3) 今後の運営方針及び見通しについて</p>	
	2. 国道495号線の冠水について	<p>昨年8月の豪雨により、国道495号線の一部が冠水し、車両の立ち往生が発生した。はまゆう区から同国道へ下りた左側が通行不能となり、右回りで県道水巻・芦屋線へ迂回しても、途中で通行止めとなるなど、住民が町中心部へ移動できない状況が生じた。また、国道沿いの田屋・正津ヶ浜地区の田畑も冠水し、数日間にわたり滞水が続いた。当該事象は住民の生命・財産及び地域交通の安全確保に直結する重大な問題である。 当該地域の排水は、大字山鹿2521番地の用水路を経て汐入川へ流下する構造となっているが、排水能力の不足、土砂の堆積、河川水位の上昇等、複合的要因が想定される。 よって、次の事項について町の見解を伺う。</p> <p>(1) 車両の立ち往生及び田屋・正津ヶ浜地区の冠水状況に関する現状認識及び評価について</p> <p>(2) 大字山鹿2521番地の用水路並びに汐入川への排水能力の現状及び課題について</p> <p>(3) 今回の冠水の主因に関する原因分析の結果について</p> <p>(4) 排水路の浚渫・改良及び国道495号線の排水改善等の対策の具体的内容並びに実施時期について</p> <p>(5) はまゆう区の孤立時における住民支援と緊急対応について</p> <p>(6) 国土交通省山鹿排水機場の排水機能の現状について</p> <p>(7) 住民の安全確保の観点からの抜本的対策の必要性について</p>	

令和8年 第1回芦屋町議会定例会 一般質問通告書

氏名	件名	要旨	備考
<p>長島 毅 [一問一答方式]</p>	<p>1. 海を生かした町づくりと町の将来像について</p>	<p>芦屋町は玄界灘に面し潮風とともに歴史を重ねてきた海と歴史の町である。しかし、現在まで「海の町」としての統一的な空間デザインが明確に打ち出されてきたかと言えば、まだ十分とは言えない気がしている。</p> <p>町長は海を生かした町づくりを掲げており、レジャー港の開業も近い。今後10年の町の姿を描くため、将来的な方向性をそろそろ決める時期なのではないかと考える。海を生かした町づくりを推進し、芦屋町を「海の町」としていくのであれば、空間デザインの検討などを本格的に開始すべきと考えるが、町の見解を伺う。</p> <p>(1) そもそも芦屋町は海の町としていくのか。本町の将来的な方向性は。</p> <p>(2) 本町における建築物の色彩、道路景観、植栽、ゲートサイン等を含めた統一的な空間デザインの現状について</p> <p>(3) ランドマーク的な存在である町立の小中学校の現在の外観色彩について</p> <p>(4) 町の色（個性）を共有するランドデザインの必要性について</p>	